2018年2月18日

福音書からのメッセージ

イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていた。
（マルコによる福音書1章13節）

先週の水曜日、教会の暦では大斎始日を迎えました。大斎節とはイエス様の十字架の出来事を思い起こしながら、心静かに、神さまに、そして自分自身に向き合っていく期節です。

今日の聖書の前半には、イエス様の洗礼の場面が出てきました。イエス様は「天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった」とあります。天を裂いたのは、他ならぬ神さまです。神さまがわたしたちとの間にある壁をこじ開けることで、神さまのみ心がイエス様を通しておこなわれることになるのです。

つまり神さまは、わたしたちの間に介入してこられました。それは何故でしょうか。いつまでたっても神さまの言うことを聞こうともしないわたしたちを裁くためでしょうか。今、世界を見渡してみると、神さまが嘆き悲しみそうな出来事がたくさんあります。銃の乱射事件や肉親に対する殺人。核の恐怖や軍事力で相手を黙らせようとする権力者。そしてわたしたち自身も同じです。悪い思いばかりが先に出てしまい、人を傷つけてしまう。自分のことばかり考え、他の人を顧みない。神さまの前に、本当に正しい人などいないのです。それが聖書の伝える人間の姿であるし、わたしたちが日ごろ感じる現実です。

しかし神さまはそのようなわたしたちを愛し、決して見捨てはしませんでした。わたしたちが神さまの前に生きる者となるために、救いの手を伸ばしたのです。それがイエス様を遣わした意味であり、イエス様の洗礼のときに天を裂いてまでおこなおうとされた、神さまのみ心なのです。

わたしたちは無力です。神さまの前に正しくあり続けられない、そんな一人ひとりです。自分の思いとは裏腹に、弱く、罪深い者なのだろうか。自分と向き合い、神さまに向き合おうとしたときに、わたしたちはそのことに気づかされます。だからこそ、わたしたちはイエス様を頼り、すべてを委ね、祈るのではないでしょうか。

今年の復活日(イースター)は4月1日です。それまでの間、心静かにイエス様の十字架の意味を思いながら、歩んでいければと思います。どうしてイエス様は十字架に掛けられなければならなかったのか。誰のために十字架につけられたのか。そしてイエス様を十字架に向かわせたのは、一体誰なのか。聖書のみ言葉に耳を傾けながら、過ごしていきましょう。

神さまは罪にまみれたわたしたちを生かすために手を差し伸べられました。その愛に感謝しつつ、少しでも神さまのみ心のうちに生かされていきたいと思います。

神さまはわたしたちに、愛のみ手を差し伸べて下さいます。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/